

中原消防団
広報誌

第19号
平成27年2月
発行
題字 中田隆氏

翔太



平成27年中原地区消防出初式開催
教訓を主かひて備える大災害

平成27年1月11日(日)・等々力緑地催し物広場で開催され、参加部隊の分列行進や一斉放水などが行われたほか、平間幼稚園幼年消防クラブ、住吉高校チアリーディング部の演技が披露された。



中原消防団長
生坂 征一

年頭にあたり

平成27年の輝かしい新春を迎え謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。この一年が皆様にとって輝かしい年になりますことを願う次第でございます。

さて、昨年はいくつかの豪雨災害が発生し多くの尊い生命と財産が奪われました。この災害列島とも言われる我が国に於いて、消防団に寄せられる期待はさらに大きなものになっていきます。そこで、昨年8月30日に解体撤去予定建物を使用した震災対応訓練が行われました。これは、市の政策として建物を取り壊す予定があった際は事業者が協力要請をし、消防団の訓練に利用している事でありませぬ。平成25年の中原区小杉町の集合住宅



中原消防署長
高嶋 敏

年頭のご挨拶

皆様、新年明けましておめでとうございます。平成27年の輝かしい新春を迎え、中原消防団の皆様にお祝いを申し上げますとともに、素晴らしい一年でありますようお願い申し上げます。

さて、1月11日、晴天の下開催されました、新春恒例の中原地区消防出初式にあたりましては、団員皆様の御協力を頂きまして、素晴らしい出初式となりましたことを、紙面をお借りして心より御礼申し上げます。

今年の出初式は、声楽家、古渡智江様に国家を独唱して頂きました。また、昨年に引き続き参加して頂きました県立住吉高等学校のチアリーディング「ランサーズ」、初参加となりました川崎市

立平間、宮内両中学校の吹奏楽部の皆さんの素晴らしい演奏により、大いに式典が盛り上がったものと思えます。

中原区内の昨年をかえりみますと、火災の発生件数は38件と一昨年より5件増えましたが、火災により亡くなられた方がありませんでした。これは平成12年以來実に14年振りのことになってまいりまして、この火災による死者「0」を永遠に継続していきたいと思っております。

また、消防団活動に大きな動きとなる法律が施行されたのは既にご存知と思えます。東日本大震災を契機とし、消防団員の活動のあり方等がクローズアップされ

将来にわたり地域防災力の中核として欠くことのできない代替性のない存在である消防団の強化、そして消防団の処遇、装備、教育訓練の改善等消防団活動の充実強化等を含む、いわゆる「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」です。

地震・火災はもとより、災害は多岐に及びます。多数の負傷者が瞬時に発生する大事故、大災害など挙げればきりがありませんが、いざの災害現場でも尊い命を救うのは我々です。初動活動は全てにおいて我々、団が先行します。

火災防禦の技術もさることながら、これからは更なる救助技術、救急処置技術を向上させ、「救える命は必ず救う」という強い信念と、その裏付けとしての知識と技術を習得する必要があると思えます。

伝統ある中原消防団は既に他の消防団の先頭を切り、リードしている存在となっております。二歩も先を行き、「これが地域防災力の中核たらん消防団の二本である」という存在にならうではありませんか。消防団と消防署は車輪の例えの如く両輪あつての存在と言われています。

消防団の皆さんの知識・技術の向上のため、消防署が事前調整を行い、実施に当たっては相互が協力しあうという正に車輪のごとき形をとりながら「中原消防団ここにあり」を実現しよう。

そのためには微力ではございますが全力でお手伝いをさせて頂きたいと思っております。

結びになります。中原消防団の皆様がますます御壮健で、中原区の安心安全と発展のため、一層の御活躍を頂きますよう衷心よりお祈りいたしまして、年頭の御挨拶といたします。

平成27年 中原地区消防出初式



一斉放水



部隊整列



国旗掲揚 (国歌独唱)



千支の引継ぎ



分列行進



宮内中学校・平間中学校吹奏楽部



住吉分団



丸子分団

平成26年9月7日(日)、川崎市北部市場において川崎市消防団操法大会が開催され、市内8団より各2チームが出場し競技が行われました。

●住吉分団
指揮者 鈴木正基 班長
平成26年市大会を振り返りますと1月中旬よりの体力強化訓練、3月から技術訓練、6月の区大会での経験、夏の訓練を乗り越えチームが一つになり市大会に出場できました事に感謝しています。

●丸子分団
指揮者 田中照雄 班長
市の大会出場を目標に掲げて団員一丸となって3月から訓練を重ねて参りました。訓練のたびに一歩ずつ進んでいるのが実感することができました。選手はもちろん指導者やサポートしていただいた団員に感謝しています。お陰様で区大会で優勝し、市大会出場を叶えることができました。また、市大会では区大会とは違う空気感がありとても良い経験をさせて頂きました。市大会でも万全な態勢で挑むことができたのか4位になったことを誇りに思います。改めて指導やサポートして頂いた方にお礼申し上げます。この経験を生かして市大会優勝を夢に、次の選手に指導して参りたいと思います。



選手宣誓 鈴木班長

平成26年度 川崎市消防団操法大会を終えて

解体撤去予定建物を使用した
震災対応訓練



解体予定の校舎



エンジンカッターを使って

平成26年8月30日(土)・法政大学第二中学校において解体撤去予定建物を使用した震災対応訓練を行いました。倒壊建物における救助技術及び消火技術の向上を目的とした訓練です。

①建物破壊訓練

- ・エンジンカッター及びストライカーを使用した床面の破壊訓練
- ・エンジンカッターを使用したドアの開放訓練



破壊器具(弁慶)を使って

②救助訓練

- ・窓ガラス破壊訓練
- ・3階からの徒手搬送
- ③耐火建物における放水訓練
- ・階段に添ってのホース延長
- ・吊り上げてのホース延長

(訓練の感想)

解体校舎ということや扉や床を破壊するという貴重な経験をさせていただいたことはとても有意義でした。



放水経路の階段

仕事柄エンジンカッターなど手にしたこともなかったもので、少し腰が引けてしまいましたが署の方の丁寧なご指導のもと、何とか使うことができました。この破壊をする作業は扉の向こうの人や階下の人の救助を想定した訓練ですが、鉄の扉やコンクリートの床を切るというのはとても時間がかかることです。一人の人間ではとてもやりきれないので何人かで交代しながらの作業になります。今回の訓練は分団からの参加は数名ということになりましたが、機会がありましたら参加できなかつた団員にもぜひ経験してもらいたいという感想を持ちました。

また、3階までホースを伸ばしての放水の訓練では「放水はじめ」の伝達が操法の訓練の癖が出てしまい、つい急いでしまったのですが「危険なものでとゆっくり」と署の方に言われてしまったのが深く印象に残っています。(丸子分団 大高)

港北消防団第五分団との
合同訓練



低水位ストレーナー・水深5cm以上で取水可

平成26年11月16日(日)、木月四丁目・鶴見川新矢上橋東側において港北消防署、港北消防団第五分団と中原

消防署、中原消防団住吉分団が参加した震災対応訓練が行われました。

今後高い確率で予想される巨大地震に対する地震災害被害想定より、消火栓使用不能時における震災対策資機材を活用した木造密集地域等の延焼拡大火災対策活動を消防団と消防隊が連携し、消防隊によるタンク放水から消防団の可搬式ポンプを活用し、河川から揚水した放水に切り替えるという訓練を行いました。

中原消防団ボウリング大会

平成26年11月28日(金)、タチバナボウルにおいて第27回中原消防団ボウリング大会が開催されました。団員の親睦を目的に昭和63年の第1回大会より毎年行われており、他分団の方とは私服で顔を合わす機会は少ないので、交流を図れる行事の一つとなっています。

子はいいものです。消防団ではこのような行事もあります、新入団員は優先して出場していただきますので入団よろしくお願い致します。

- 今回の成績は個人の部
- 優勝 荒川 博之(丸子)
 - 準優勝 藤枝 康利(丸子)
 - 第3位 深谷 賢司(住吉)

- 団体の部
- 優勝 住吉分団
 - 準優勝 丸子分団
 - 第3位 大戸分団



堰止めて揚水し放水

- 訓練内容
- ①可搬式ポンプ取扱訓練
 - ②震災対策資機材を活用した低水位河川からの吸水訓練
 - ③消防団・消防隊が連携した遠距離送水訓練



団体優勝
住吉分団の皆さん

中原消防発足90周年

地域に根ざす消防団の歴史は、古くは江戸時代の町火消しから始まります。中原消防団の歴史をたどってみますと、大正14年に中原村と住吉村の合併によってできた中原町の中原消防団として誕生し、幾多の変遷を経て今日に至ったものです。今年9月に90年の節目を迎えます。

中原消防団沿革

◆大正14年9月
中原消防組

中原町の誕生により発足
総員638名
初代組頭 鹿島育久

◆昭和8年8月
川崎第五消防組

川崎市に編入による
定員101名
初代組頭 石井弥吉

◆昭和14年4月
川崎第五消防団

戦時下、消防組と防護団の一元化による
定員不詳
初代団長 市川 郁

◆昭和17年12月
中原警防団

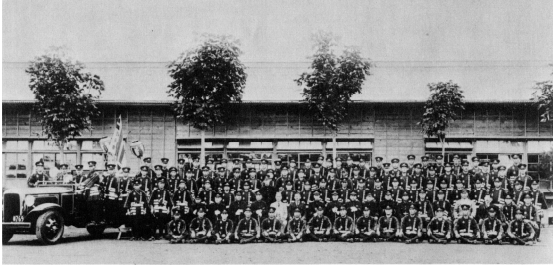
中原警察署の設置に伴い再編成される
基幹団員714名
普通団員650名
初代団長 市川 郁

◆昭和22年10月
中原消防団

戦後の消防団の発足
定員345名
初代団長 市川 郁

◆昭和47年4月

川崎市に区制が施行され日吉分団が幸消防団へ編入し、現在の5分団編成となる。
現在の定員265名



昭和9年10月 川崎第5消防組第1回全員点検(中原小学校)(101名中、98名出席。97%の出席率である。)

中原消防60周年記念史より

期待の星

- 1 生年月日
- 2 職業
- 3 入団のきっかけ
- 4 抱負
- 5 趣味・その他

住吉分団



末永 直

- 1 S58・527
- 2 議員秘書
- 3 東日本大震災ボランティアの経験から、災害時に役に立ちたいとの思いがあったので、先輩からのお勧めがあり、決意しました。
- 4 少しでも地域のお役に立ちたいと思います。学んで参ります。
- 5 お笑いライブ鑑賞、草ソフトボール



和田 祐征

- 1 S61・122
- 2 自営業(農業、不動産賃貸業)
- 3 親戚からの薦めと、自分の住んでいる地域に貢献したいと思ったから。
- 4 できるだけ多くの活動に参加し、自分にできることを精一杯していきたい。
- 5 バイク

住吉分団市ノ坪班 車両更新

平成26年12月に市ノ坪班の小型ポンプ積載車が更新されました。

列伝 分団の人気者



大戸分団 渡辺 貴彦 団員 (神地班)

川崎市役所に管理職として勤務する渡辺団員は「地元へ貢献出来る事は」と考え入団されました。

忙しい職務の合間に

臨んだ操法の選手の時には、訓練後に職場に舞い戻る事も度々ありました。今は「公務員でも消防団員は出来る」と同僚を勧誘しています(笑)と語る。真面目で温和な性格と優しい笑顔で分団での信頼も厚い渡辺団員。これからも市民の皆様のために、仕事でも消防でも活躍される事を期待します。(大戸分団 猪股)

第44回 中原消防団 消防大会のお知らせ

日時 平成27年5月31日(日) 午前10時(予定)
場所 等々力緑地公園 催し物広場
競技(分団対抗)
・ 小型ポンプ操法
・ ホース延長・伝令・収納
・ 応急救護
・ 防火衣着装
・ 小隊訓練
訓練の成果を披露いたしますので皆様の温かい声援をお待ちしております。



小型ポンプ操法 昨年優勝 丸子分団の放水

編集後記

中原消防団広報誌「翔太」第19号をお届けします。発行にあたり、ご協力に深く感謝致します。

叙 勲



元中原消防団長の内藤雅光様が平成26年秋の叙勲において瑞宝単光章の榮に浴されました。誠にありがとうございます。

発行責任者	生坂 征一
編集	中原消防団広報部
広報部長	原 充功
中原分団	坂西 利秋
大戸分団	峯岸 雅宏
住吉分団	猪股 昌美
玉川分団	鹿島 秀樹
丸子分団	横山 芳春
	田口 眞弓
	若島 恒行
	高橋 淳司
	大高 喜道
	山本 喜道